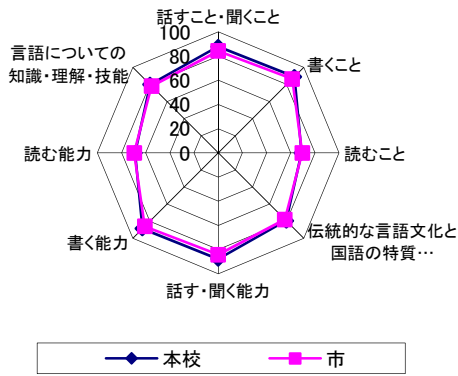


宇都宮市立城山中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	87.9	84.3	81.2
	書くこと	89.1	86.4	74.0
	読むこと	68.9	69.5	64.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.5	77.9	70.6
観点別	話す・聞く能力	87.9	84.3	81.2
	書く能力	88.7	86.0	74.2
	読む能力	68.9	69.5	64.8
	言語についての知識・理解・技能	79.8	78.1	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(国語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

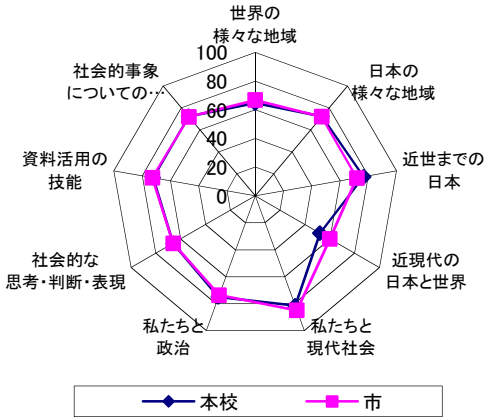
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	全ての項目で、宇都宮市の平均を上回り、平均正答率は、市より3.6ポイント高かった。 ○聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることが特によくできていた。	・話し合いの流れを的確に捉えて発言する機会を授業の中に設けて、話す練習をしていく。 ・聞き取りテストを実施し、メモをしながら聞き取る経験をもたせる。
書くこと	全ての項目で、宇都宮市の平均を上回っていた。 ○自分の立場を明確にして文章を書いたり、三段構成で文章を書くことはよくできていた。	・単元ごとに、学んだことに対する自分の考えをまとめて表現する学習を取り入れていく。 ・新出語句を用いて、短文作りを数多く書かせていく。
読むこと	平均正答率で、宇都宮市の平均よりわずかであるが低かった。 ○文章の展開に即して内容をとらえることや、文章の構成や展開をとらえることはよくできていた。 ●登場人物の様子から、その心情を推測したり、表現の特徴を捉えることはできていない。	・登場人物の心情を、人物の行動や、情景描写などから読み取る経験を重ねさせていく。 ・文章の構成や展開を、接続詞の使い方に注目して内容をまとめさせていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、宇都宮市より2.7ポイント上回っている。 ○「疲労」の読みは、100%の生徒ができた。「志望」の書きは、宇都宮市の平均を11ポイント上回った。 ●「招待」の書きは、市の平均は上回ったが、正答率は69%と低かった。助動詞についてと、類義語・対義語の理解は不十分であった。	・漢字の小テストを、授業のはじめに計画的に実施していく。 ・助詞や助動詞などの文法の学習は、単元の中で、繰り返し学習できる機会を設ける。 ・類義語・対義語・ことわざ・慣用句などはプリント学習を計画的に実施していく。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	世界の様々な地域	64.7	66.8	54.1
	日本の様々な地域	72.2	72.1	63.4
	近世までの日本	76.7	72.0	62.0
	近現代の日本と世界	52.0	60.0	55.2
	私たちと現代社会	81.5	85.0	73.0
	私たちと政治	75.0	73.7	71.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	66.1	66.1	52.0
	資料活用 of 技能	72.3	72.8	63.0
	社会的な思考・判断・表現	72.3	72.0	64.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

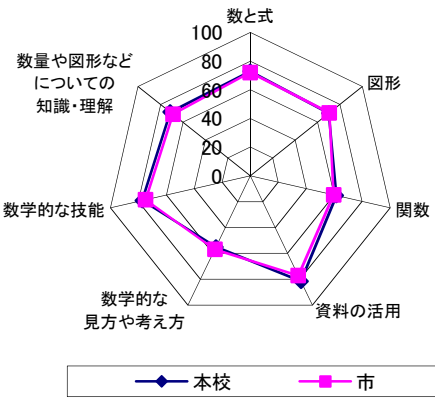
領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の様々な地域	・平均正答率は、市平均よりも2.1ポイント下回っていた。 ・どの設問も正答率は市平均よりもわずかにポイントが下回っていた。特にアジア州の原油生産量・消費量に関する図の構成について考える問題の正答率が57ポイントと最も低かった。	・アジア州やヨーロッパ州などの、世界のさまざまな地域の特色の理解を深めさせる。 ・対象の変化や増減、高低などを分析する資料の読み取りの学習活動を、積極的に取り入れていく。
	日本の様々な地域	・平均正答率は、市平均とほぼ同じであった。 ・日本の気候区分の理解をもとに、雨温図を読み取る問題は、市平均よりも3.1ポイント上回っていた。主な自然災害については正答率が89ポイントと高くなっていた。・中京工業地帯についての理解をもとにグラフを読み取る問題では、正答率が52ポイントと低くなっていた。	・気候区分や自然災害など、日本のさまざまな地域の特色の理解を深めさせる。 ・日本の工業地帯の製造品出荷額を示したグラフを活用し、資料を読み取る力を育てていく。
歴史	近世までの日本	・平均正答率は、市平均よりも4.7ポイント上回っていた。 ・奈良時代の皇室の生活の様子について資料を読み取り説明する問題は、市平均よりも1.6ポイント下回っていたが、その他の問題は全て市平均を上回っていた。特に、江戸時代に関する近世の内容は、生徒はよく理解している様子である。	・奈良時代の税制をはじめとする、律令制度における当時の人々の暮らしについて理解を深めさせる。 ・さまざまな歴史資料を授業で活用し、その資料をもとに自分の考えをまとめ、説明する力を育てていく。
	近現代の日本と世界	・平均正答率は、市平均よりも8.0ポイント下回っていた。 ・どの設問も市平均よりも下回っていた。特に、朝鮮戦争など冷戦に関する問題の正答率が低く、学習内容の理解が不十分であるようである。	・産業革命や朝鮮戦争といったできごとが、当時の人々の暮らしにどのような影響を与えたかについて理解を深めさせる。 ・当時の写真や図、グラフなどの資料を積極的に活用した授業への工夫を図っていく。
公民	私たちと現代社会	・平均正答率は、市平均よりも3.5ポイント下回っていた。 ・情報化の進展に関する資料を読み取る問題は、市平均よりも9.4ポイント下回っていた。一方、対立や合理などの理解を問う問題は2.5ポイント上回っていた。	・情報化、グローバル化などの現代社会に関する資料を積極的に活用した授業の工夫を図っていく。
	私たちと政治	・平均正答率は、市平均よりも1.3ポイント上回っていた。 ・公共の福祉についての理解や、法律が成立する過程やしきみ、裁判のしきみについての理解を問う問題は市平均よりも上回っていた。一方で、環境アセスメント、議院内閣制などの内容を問う問題は本校のポイントが下がっていた。	・議院内閣制や直接請求権といった、国の、あるいは地方の政治について、理解を深めさせる。 ・議院内閣制や三審制などのつながりや関係を示した図を活用し、資料を読み取る力を育てていく。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	72.8	72.1	70.7
	図形	70.1	70.5	58.1
	関数	61.6	59.6	52.1
	資料の活用	81.5	77.2	64.1
観点別	数学的な見方や考え方	55.0	56.9	47.7
	数学的な技能	77.2	74.9	69.2
	数量や図形などについての知識・理解	71.4	68.9	59.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(数学では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

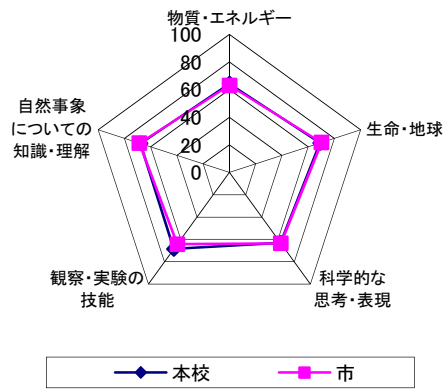
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	・多項式と単項式の計算や乗法公式を使つての式の展開の計算は9割前後の正答率である。また、方程式を解く問題についても8割前後である。 ・平方根を利用した問題の正答率は6割程度であり、苦手になっている生徒が多い。	・「数と式」の領域は、数学全般を学習する上で必要不可欠な部分である。ドリルなどを実施して、しっかりと身に付けさせる必要がある。複雑な式の計算を苦手としている生徒が多いので、基礎・基本を押さえ、やや複雑な計算の問題を小テスト形式で行い解答・解説を実施する。
図形	・平面図形、空間図形において、位置関係や角度、辺の長さを求める問題については、7割以上の正答率であり、市の平均を上回っている。 ・図形の性質と証明では、証明の内容を正しく読み取り証明を完成させる問題の正答率が5割弱となっており、苦手になっている生徒が多い。	・初めは簡単な図形の証明の問題を解くことにより、証明の手順を身に付けさせる。その時、何が仮定で何を求める問題なのかをしっかりと確認させたい。その後、やや複雑な問題を解かせて、使える条件を十分に利用することの大切さを指導する。また、プリント学習の時間を導入する。
関数	・関数を式で表したり、変域を考えたりする問題については、市の平均を1割以上上回っており、定着が図られている。 ・yの2乗に比例する関数で、グラフをもとにして木片が動く距離や質量を考える問題では、正答率が5割以下となっており、苦手としている生徒が多い。	・グラフを使って、様々な関数の問題演習を行う。その時いろいろな解き方を考えださせたい。また、他の領域との関わりがあるので、わからない時はその都度確認させたい。
資料の活用	・資料の活用や確率の問題では、いずれも8割程度の正答率になっており、市の平均を上回っている。得意とする生徒が多い。	・日常生活の中で確率の考え方が利用されていることに気付かせ、身近なものとしてとらえさせたい。 ・やや複雑な確率の問題にも挑戦させたい。その際、正しく場合分けができるようにする。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	64.4	63.0	57.9
	生命・地球	69.1	70.2	65.2
観点別	科学的な思考・表現	63.0	63.5	57.5
	観察・実験の技能	68.6	64.3	61.5
	自然事象についての知識・理解	67.8	68.6	64.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

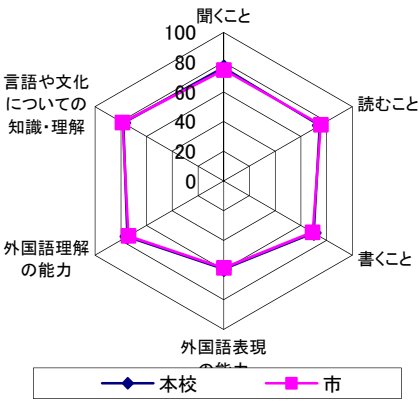
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・音は空気が振動を伝えていることについては、市より10ポイント上回った。また、物体のいろいろな運動では、紙テープのはじめの部分を使用しない理由やテープの長さから速さを求めることの正答率が、共に市を10ポイント以上上回った。 ・有機物や無機物の違いや、塩化銅水溶液の電気分解における電極のようすの説明では、市より正答率が低かった。	・電気分解などを、イオンが移動する順にそって丁寧に説明し、理解を深めさせる。また、イオンの記号やイオン式、化学反応式などを、きちんと覚えられるようにドリル学習等で工夫する。
生命・地球	・偏西風についての理解は市より12ポイント、マグマについての理解は市より7ポイント上回った。 ・シダ植物とコケ植物の共通する特徴は市より7ポイント下回った。また卵、精子、体細胞の染色体数の理解は市より11ポイント下回った。	・用語や語句について、正しく理解するようくり返して学習する。また、単独の用語を説明するだけでなく、関連する用語の共通する特徴や違いも説明できるように工夫する。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	76.4	74.8	66.0
	読むこと	74.6	75.5	66.9
	書くこと	70.0	69.1	64.8
観点別	外国語表現の能力	59.3	58.5	53.9
	外国語理解の能力	75.0	74.1	65.7
	言語や文化についての知識・理解	78.0	78.8	71.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	・リスニングは、絵を適切に表す英文の聞き取り問題の正答率が高い。 ・対話文に関する聞き取り問題での正答率が低い。	・授業で、教師の英語をたくさん聞かせる。 ・授業で、対話活動の場面を増やす。(Q and Aやインタビュー) ・ALTを活用し英語の使用場面を増やす。 ・対話文の読解をさせる。
読むこと	・長文の読み取り問題では、本文の概要は理解できる生徒が多い。 ・内容に関する質問に英語で答えることを苦手とする生徒が多い。 ・また内容に関する質問の形式により、正答率が低くなる。	・教科書の内容理解では、英語のQ and A形式での問題を多くして慣れさせる。 ・いろいろなパターンの質問形式で内容確認をし、応用力を身に付けさせる。
書くこと	・基本的な単語は、かなり書くことができる。 ・場面に応じて書く英作文が苦手な生徒が多い。 ・3文以上の英作文を苦手とする生徒が多い。	・定期的な単語テストや反復単語練習をし、単語力をさらに向上させる。 ・3文以上の英作文練習の回数を増やす。 ・自分の経験や考えをはっきりと表現させる言語活動を行う。